

¡Hola amigos!

RとNの Málaga からの手紙

(042号)

皆さんこんにちは。

このページは、私達のスペインでの日々の暮らしを友人・知人の皆さんに知って頂こうと思って開きました。 ですからごく私的なもので、読者のかたも大なり小なり私達をご存知だという想定で作成しています。そのつもりでご覧下さい。

各項の更新は不定期ですが、なるべく毎週末迄に何らかの更新をするつもりです。

更新日を確認の上各項目を選択してください。

2004年04月22日 R & N

目次	更新日
身辺雑記	2004年04月22日
Bar RyN	2004年04月22日
買い物百般	2004年04月22日
エクスカーション	2004年04月22日

ご注意 : 各項目のファイルは更新日から一ヶ月を経過したら削除します。
悪しからず。

* 身近雑記 *

「陽当たり良好」の巻 2004年4月22日 更新

月曜日の朝、前夜の夜更かしがたたって、些か寝坊してしまいました。日曜の夜10時から、その週末にあったフットボールの試合を総括するゴル・ア・ゴール gol a gol という面白い番組があるんです。今年はバレンシアが頑張っていて、常勝の最強チーム、レアル・マドリードに並んでいて目が離せません。

レアル・マドリードというチームは世界中の超一流選手を集めた、勝って当たり前という陣容です。スペインの星・ラウールを初めフランスからジダン、ポルトガルからフィーゴ、ブラジルからはロナルドとロベルト・カルロス、そしてイングランドからはカのベッカム様。とにかく出てくる選手、出てくる選手みな有名選手ばかりです。外国人選手はみんな自国ではトップ・クラス、スペイン人も他チームならスターになれるような選手ばかりです。こういう超一流選手の華麗且つ強力なプレイを見るのは大きな楽しみです。金にあかせてキラ星の如く有名選手を集める姿勢はどうも好きになれず、チームとしてはバレンシアを応援したくなります。判官贔屓です。

どこやらにも、高給選手ばかりを集めて、勝って当たり前なのに勝てない野球チームがありましたね。そのチームもこのレアル・マドリードの選手の高給ぶりには全く太刀打ちできません。個々の選手の力量の合計はスゴイの一語に尽きますが、こういうチームにありがちな、勝っているうちはいいが一旦負けが込むとクサリ易い点がチラッと見えることが、バレンシアにとっては望みの持てるどころです。

一流ピッチャーと一流バッターの対決はそれなりに大いに魅力あるものでしたが、欧州のサッカーを見るようになって、あらためてそのスピード感に魅せられています。という訳で日曜の夜はフットボールだけで間違いなくMN。そのあとも見た覚えのある面白そうな映画をやる事が多く、ついつい寝るのは二時、三時になってしまいます。見たことのある映画？と思うでしょうが、間違いじゃありません。見たことがあってスジが分かっている映画を見るのが、私達のスペイン語の楽しい「お勉強」です。



その夜更かしの次の朝、眠い目をこすりながら寝室のシャッターを開けると、物凄い西風です。この窓は例の、山が見える、海もチラット見える窓ですが、西に向いています。目の前のハカランダも風になびいて大揺れに揺れています。前夜、寒冷前線が通過した後の所謂大西風です。日本では冬のものですがココでは冬とは限りません。それにしても良く吹くなー、と暫く窓の外をみていました。風にあおられていろんなものが飛んできます。すると目の前で何かがチラット動きました。

上の写真で鉄格子の左から一本目と二本目の間、上から四分の一ぐらいの所に巣らしきものがあるのが分かりますか？ そうなんです。あの数珠掛け鳩は食卓前のハカランダに来なくなったと思ったら、コッチのハカランダにいつのまにか巣造りをしてたんですね。そういえば例のホ・ホーッ・ホという鳴き声は時々遠くで聞えていましたがこのガラス戸は寒い間は殆ど締め切りだったので、居間からでは遠くに聞えたのでしょう。二人でソーッと様子を窺っていました。どうやら卵を抱いているような素振りです。暫く姿を見ないなと思っていたら、こんな所で巣づくりをしていたのか。今までは葉っぱの陰で見えなかったんですね。最近ハカランダの葉っぱがどんどん落ちて新芽に替わっているので、巣も丸見えになってきたんです。



それにしても、コイツどうして、何が良くてこんな場所に執着するのでしょうか。どう見たって野鳥が好んで巣作りするような場所ではないでしょうか？ しかもどのハカラランダもこの時期落葉が進んで、新芽は出てきてはいるものの、殆ど裸同然です。正面奥の建物の右側、日が当たっている壁面と、左側の日陰になっている部分との角の一階（日本式に言えば二階）が私達の部屋です。二枚見える青い看板のうち左側のもののすぐ上が寝室の窓で、それから左へ二本目が問題のハカラランダ。一本目は道路の反対側（この写真では手前側）のものです。



何週間か前、次の写真のようにこのハカラランダの根方の歩道に下りていたの
で何の気なしに写真をとっておきました。このすぐ手前はもうバルのテラス
で人を気にしなければパン屑等は豊富
です。環境の検分をしていたのかな？



寝室の窓からではコッチが少し高いので、少なくなったとはいえ葉っぱが邪魔でよく見えません。そこで歩道へ下りて行って見るとこの通り。なんともオソマツな小さい巣ですね。自分の体さえはみ出しそうで、これで果たして卵を安全に確保できるのか大いに疑問です。路面からはせいぜい3メートル、一番近いバルのテラスのテーブルから4メートル位です。寝室の窓からは6メートルあるかなしかです。そして、この歩道は日中ひっきりなしに人が通るし、バルのテラスにもしょっちゅう客がいます。月曜朝の風は、前の家具屋の壁に取り付けた看板が曲がるほどの突風でしたが、当然ハカランダの木は大揺れに揺れていました。そんな風の中でよくこんな安直な巣が持ちこたえたものだと感心するくらいです。風当たりは食卓前の方の方がずっと弱いのです。ココでの強い風は殆ど西風ですから建物の西側に面した寝室側の木は不利な位置なのです。しいて良い点を上げれば日照時間の長さでしょう。ウチは角部屋の恩恵で日照も風通しも満足ですが、コイツは風当りの強さは覚悟で日当たりのよさを取ったのでしょうか。

気になることが一つ。私達がこの巣に気がついてからもう三日たっていますが、一向にパートナーがやってきません。彼（とは限りませんねオスが卵を抱くというケースもあるようですから）はどうしちゃったんでしょう。事故にでもあったか、又はニゲてしまったか。卵を抱いている奴は水や餌はどうしているのか？ Nはしきりに、カワイソー、かわいソーといっていますが、そんなこたシャーない。♪ヨクアールー、ハナシジャンイカー♪ Rの解釈はチョッと違います。卵なんかハナッからないんじゃないのか？ そうでなきゃ、あんなチャチな巣では、あの風の中で転がり落ちちゃうはず。人間を含め哺乳類には想像妊娠ってのがあんじゃないですか。***

* B a r R y N *

「バルの小道具・II・コパ」の巻 2004年4月22日 更新

皆さんはビールを呑むのにどんなグラスを使いますか？ タンブラー？ ジョッキ？ それとももっと上等の例えばHOYAクリスタルなどのビアー・グラス？ 又はビール会社の宣伝用グラス？ 何でもいいんですが、日本ではビールを足つきのグラスで呑むことはあまり多くないですね。店でも「キリン・シティ」以外、足つきで飲んだ記憶は多くはありません。欧州旅行をされた方は御存知と思いますが、イギリス・アイルランド以外の大陸側諸国ではビールは足のあるグラスで呑むことが多いですね。大陸側、特にベルギーは、所謂、地ビールの小さなメーカーが400社位もひしめいているのだそうですが、その殆どが自社のビアー・グラスで呑ませるんですね。

アントワープ **Antwerpen** やゼーブルッヘ **Zeebrugge** へは良く入港しました。ゼーブルッヘというのはブルッヘから海のほうへ14~5キロいった所にある港、ブルッヘとは日本では「ブルージュ」とフランス名で言っている小さな綺麗な街です。ベルギーという国はフランス語とオランダ語の両方が公用語になっているんですが、なぜか海事関係者は殆どがオランダ語系の人なのでブルージュもブルッヘになってしまいます。実はこの (**gge**) ッヘ、という発音は難しくて、こう書いていいのかどうか自信はありませんが、外国人のしゃべる言葉なんだからブルッヘで許されるでしょう。でも「ブルッヘ」じゃ日本の観光客は呼べませんねー。

まあ、それはともかく、こういう港町やブルージュで、ビールを呑ませる店では少なくとも10種類、多い店は20種も30種もいろんな銘柄のビールを置いています。席について、ビール、という注文は馬鹿げていて、そりゃ分かってますよ、だからどの銘柄を呑むの？ ということになります。じゃ、ヒューガルデンと言えばヒューガルデンのグラス、ブルッグスと言えばブルッグスのグラスで、と夫々の銘柄のグラスで出てくるわけ。そして、その殆どが足つきグラスなんですね。たまに足のないグラスも有りますが、グラス内部の底は丸くなっています。



(全部がベルギー・ビールではありませんが夫々のグラスで呑むとはこういうこと)



この底が丸いということが肝心なようで、大体ベルギー・ビールはアルコール濃度が高いのが主流で6～7度なんかは当たり前、10度前後のも沢山あります。だから、ゴクゴク、プハーッというような呑み方はあまり流行らないんですね。どちらかというとジトジト、ジワーッ、とした呑み方の人が多いようです。これが案外私達にはあうんです。引退直前にNと一緒にブルージュへ行ったんですが、そこでNもいっぱしのベルギー・ビール愛好家になってしまいました。そこで何故足つきか？ということですが、足つきグラスは大概底が丸まっていますね。この丸さがビールを注いだときキメの細かい長持ちする泡を作ってくれる、のだそうです。



日本にいた頃は「自ビール」造りに熱中していましたが、砂糖を使わず麦芽糖だけで6パーセントを超えるアルコール濃度を造ることは至難の業でした。それでも味は濃厚でやっぱりジトーツと呑むのに適していたと思います。だから当然グラスは写真のような足つきです。その習慣はスペインにきた今でもずっと続いていて、ウチではタンブラーを使う事はありません。

この辺のバルでは、生ビールを呑みたい時はカーニャ！と言います。カーニャ **caña** とは筒状のもの、特にフシのある中空の棒状のものを指しますが、この場合は筒状の長いタンブラーです。直径5～6センチ、長さ15～16センチで口から底まで全く同じ太さです。また普通、セルベサ！と言うと瓶ビールが出てきますが、どの店でも必ずそうなのかどうかは不明です。「余程の事」があつて、アルコール抜きの場合にしか外で生以外のビールを呑むことはないので良く分かりません。「抜き」のときはセルベサ・シン・アルコール！です。そうすると、嬉しい事に殆ど例外なく足つきグラス、コパが添えられてきます。アルコール抜きの味気ないセルベサも、上のようなコパで呑めばチョットはその気になれようというものです。

これらのコパは各ビール会社が販売促進のため出すものです。勿論日本のメーカーのものもありますが、正直言ってあまり欲しいと思うようなものではありませんでした。ここでは各メーカーが手を変え品を変え、大抵は4本で一個とか6本で一個なんていう売り方をします。ついそれに釣られて欲しくもないビールまで買ってしまうのです。こういうコパの欠点はごくもろいものが多いこと。次々壊してはまた性懲りもなく買ってしまいます。マンマと術中に嵌っています。***

* 買い物百般 *

「カンビオ」の巻 2004年4月22日 更新

cambio と書きます。英語の **change** に相当する単語で、変化・交換・交代・つり銭

両替・変速装置・転轍機・作戦変更・改行、などいろんな意味があります。

この西和辞典には出ていませんが、Rの過ごしてきた世界ではもう一つ別の使い方もあります。単信式無線電話では一区切りの言葉の後に必ず「カンビオ」と言います。

英語では「オーヴァー」日本語では「どうぞ」と言いますね、映画なんかで聞いた事あると思います。「こちらは〇〇です、感度いかがですか？ ドーズ」なんて言ってるアレです。この「ドーズ」を、スペイン語ではカンビオと言うんです。辞書ではコルト

ト **corto** 又はフエラ **fuera** だと書いてますが、Rの知る限り普通はカンビオです。

単信という言葉になじみのない方のために簡単に説明します。複信というのは普通の電話と同じように自分の声も相手に聞えて、同時に相手の声を聞くことも出来ます。

けれども単信では自分が話す時は送信ボタンを押さなければなりませんし、受信するときはボタンを離しておかなければなりません。送受信とも同じ周波数を使うからです。だから、両方が同時に話そうとして同時にボタンを押してしまうと両方とも相手の言った事が聞えないわけです。こういう不都合を解消するために自分が言いたい事を言い終えたら、ハイ今度はあなたの番ですよ、私は聞いてますよ、という意味でカ

ンビオ、と言って区切りをつけるのです。

これはイイ方法ですね。お互いに言いたい事を言いたいだけ行って、相手の言いたい事も言いたいだけ言わせて聞く、討論会なんかもこうすれば話が交錯する事もないわけ。その代わり喧嘩には向いてません。「バカヤロー、ドーズ」「何いってやがる、ドーズ」。国会中継・予算委員会のやり取りなんかがそれに近いですね。野党質問者が長々と資料などあげつらっての質問を終えます。答弁者、例えば総理が手を上げます。議長「内閣総理大臣・中曽根康弘クーン」。総理がマイクに進み、「承知してオリマセン」そして席へ戻り着席。議長はたった一声のためのカンビオ役。

話が脱線しました。これは買物の項ですね。買物でのカンビオは勿論つり銭。今日はつり銭の話です。ココではつり銭の間違いがとても多いんです。いつかお話ししましたが、スーパーのレジ・ネーさん、レジ・オバさんは、よくオシャベリしています。隣のレジ・ネーさんと、又は三つ四つとんだ向こうのレジ・オバさんと、はたまた行列のずっと後ろの方にいる顔見知りのオバさんと、どうかすると三者会談、

四者会談です。日本なら、即、クビが飛びますね。

レジの手を休めず、または時々休めて延々とオシャベリです。何しろスペイン語での対話にはゼスチャーがツキモノですから、バーコードでピッと言わせながらではゼスチャーもしにくかろうというもの。そのうちバーコード読み取りが旨く行かず手打ちしなければならないものも出てきます。その間もオシャベリは続いていますから間違えるナヨ、と言うほうが無理というもの。トキソバじゃありませんが数字の絡んだ話

なんかしてたヒにゃあ、何を手打ちするか分かったもんじゃありません。

私達もこういう場面にシバシバ行き当たります。そういうときは要注意、同じものを二回打ってないか、オフエルタ **oferta**(=安売り)のものがちゃんと安値になっているか、ヨーク見ないといけません。売り場では安売りの黄札が付いていても、バーコード読み取りの修正がインプットされてなくて、レジでは元値のままというのが実に多いんです。これはスペインに限らず日本のスーパーでも良く経験した事ですが、この件に関してはレジ・ネーさんの責任ではありませんね。ここの或るスーパーではこれに関してレジで揉めているのを良く見かけます。安売りの筈がその通り安売りになっていないと正価で買うより損をしたような錯覚におちいってしまいます。

そういうスーパーでなくても、オシャベリ・レジのための間違いは何処でもあり得ます。安売りのインプット・ミスの場合は常にこちらが被害者ですが、レジ・ミスはそうとばかりは言えません。実は私達は断然トクをしているのです。数多いミスの中で多い方へ間違ふより少ない方へ間違ふ方の頻度が断然高いのです。多く間違った場合はその場で指摘できれば、修正してくれます。何しろオオッパナシしながらですから自分のやっている事に断固とした自信など持ちようもありません。店を出てしまっただけではコッチの泣き寝入り。少ない方へ間違った場合は？ 勿論ダンマリ。



釣銭そのものの数え間違いもかなりの頻度で起きます。何しろ釣銭を数える間も口は休んでいませんからね。一方、個人商店はというと、コッチは一軒一軒その店の個性がはっきり出ます。きちんとスーパー並にレジってレシートをくれる店、レジスターそのものがない店、レジがあってもレシートをくれたりくれなかったり、様々です。個人商店では一銭(1センチモ **céntimo**)や二銭の小さい釣銭はハナッから無視してくれないところがあります。ズイブンな話だと思うでしょうが、そういう店は逆に一銭や二銭出っ張ったのは取りません。ケチンボじゃ無くて面倒なだけなんです。この間写真の郵便局へ行きました。今まで日本向けが76銭だったのでキッチリ用意して出したところ、セニョール、アト一銭ですよ。値上がりしてたんですね。エっと思っ一銭を探してポケットをアチコチ探っていると、バレ、バレ、と言うんです。マけてやると言うんです。個人商店ではなく郵便局ですよ。これにはもうビックリ。今までの最大の間違いは釣銭が買物の額より多かった事。これにはあまりに意外すぎて貰ったこっちも気づかず、店を出てから、アッ、紙幣を間違えてると分かったんですがそれから店内に戻って多く貰いすぎたよ、という証明も難しいですよ。まあこれは神様のプレゼント。それにオシャベリの腰を折るのも気の毒だし・・・。***

エクスカーション

「マラゲータ」の巻 2004年4月22日 更新

先週、マラガの復活祭を見た後そのまま浜に出て、チリングートで遅い昼食を食べました。前回の「Bar」の項でそのお話をしましたね？

あの店のある所がマラゲータの先っぽですが、去年、あのあたりは何回か歩いてみてワルクナイなどは思っていたのです。けれども、その頃はまだ引越はずっと先のことだし、第一、タルヘタがもらえるかどうかさえ確信を持てなかったもので、具体的に引越し候補地として考えながら見ていたわけではありませんでした。

そして今、タルヘタは手に入ったし、とりあえず後一年半はこの国での生活が続くわけで、このマラガ市も一つの選択肢としてマジメに考え始めました。第一候補地は依然としてカデイスなのですが調べれば調べるほど難しそうなので、第二の候補地も考えておかざるを得ないのです。

マラガ市内ではこのマラゲータが一番気に入った市街地です。この地区の入り口からマラガの旧市街なら徒歩で約10分以内、デパートや電車の駅、バス・センターなども20分以内でしょう。今の私達のライフ・スタイルでは何処でも何でも徒歩で一時間以内であれば御の字です。勿論、市内バス路線も通っています。

その他の長所も色々あります。先ず交通量が限られている事。半島状の所ですから、そこに用のある車しか入ってこない、通過する車はないので高速で騒音を撒き散らして行く車がないわけです。完全な平坦地で、坂道が無い事。徒歩での水物の買出しにはかなり重要な条件です。平地ではあっても川は無いし、周りは全部海ですから水が出るオソレは皆無である事。外国人が比較的少ない事。なにがしかの、海の、又は港の景観が期待出来る事。マラガ空港から一時間以内でこれる事。等等。

一方欠点は、先ず全般に高目、特に景観のいい所はとても高い事。外国人が少ないという長所は、外国人を受け入れたがらないということの裏返しである事。これについてはかなり悲観的な情報も得ています。



もう一度マラゲータをいろんな角度で見てみよう、それにはまず高い所で俯瞰するのが一番と、ヒブラルファロ **Gibraltar** に登ってみることにしました。これはスペインがムーアの手からマラガを取り戻してから造った城です。この城がある丘の麓には

そのムーアが築いた古城アルカサーバ **Alcazaba** が有ります。

二つの城を結ぶ遊歩道の工事は、ピカソ美術館と同じく私達が引っ越してきた時既にやっていました。その後何時行ってみても工事は続いているようでもあり、中止してしまったようでもあり、はっきりしませんでした。先週復活祭に行った時確かめたらどうやら出来上がっているようでした。それじゃ、あれを歩いて登ってみるかとお出かけたのです。改めて、マラガの街、我が町になるかもしれない街、を紹介します。

上は、その遊歩道を登って行って、丁度丘の中腹ぐらいの所から南に向って見たマラガ港の東半分です。写真の真中の右上2～3センチの所に白い灯台があるのが判別できるでしょうか？　これが先週行ったチリングイトの写真に写っていた灯台です。

そして、そこから写真の左端部分にかけての一带がマラゲータ **Malagueta** です。港の一番外側には現在コンテナ船用の埠頭を造成中で既に一部は稼動しています。



これはマラガ港の南西方。さっきの灯台が左端に見えてますね。半分出来かけのコンテナ・バースで、早くも荷役をしているのはデンマークの大海運会社マースク・ラインの中型コンテナ船です。真中へんに見えるのはアフリカ大陸にあるスペインの飛び地メリーヤ **Melilla** に行くフェリー。この船やその手前の海軍輸送船などが停泊している内港は殆ど開店休業といった状態で、たまにクルーズ客船が入港する時以外は閑散としています。マラガは古くからの港町ではありますが、観光が主たる産業である後背地の事情と、コンテナ輸送の受け入れなど港の近代化に立ち遅れたため、他の港に大きく水をあけられたのだと思います。遅ればせながらコンテナ・バースの建設を急いでいますが、これだけで活気を取り戻せるのかどうか？

手前右は古色蒼然の市庁舎。その右隣はマラガ大学旧館。右端はマラガ美術館（ピカソ美術館ではない）。はるか向こうの小山を回り込んだへんが我が町ベナルマデナ。真中の大きな街路樹が連なっている所はパセオ・デル・パルケ **Paseo del Parque** 日本風に言えば大通り公園です。それを真っ直ぐ右手に進んで、美術館を過ぎたへんから更に右のほうがセマナ・サンタの行列で賑わったアラメダ・プリンシパル **Alameda Principal** です。



これは、前の写真の更に右(西方)。中央すぐ右に大聖堂の尖塔が見えますね。その左手前の茶色のブロックがアルカサーバです。大聖堂の周り一帯が旧市街。ピカソ美術館は尖塔の少し右辺りです。丁度ど真ん中に白いビルがありますが、これが中央郵便局で電車の始発駅マラガ・セントロはこの下です。郵便局の向こうに新市街が広がります。アルカサーバと市庁舎・大学旧館に挟まれた、真っ直ぐ手前に向ってくる道路がアルカサーバとヒブラルファロを結ぶ遊歩道への入り口です。ココから九十九折に

丘の斜面を上がってくるのですが、右端手前にその一部が見えます。

スペインの城は何処でも大抵同じですが、見晴らし抜群です。飛び道具の発達していなかった頃の戦闘では敵をより早く発見する事と、敵より少しでも高い所に位置する事が何より重要だった筈です。日本でも山城は多いですが必ずしも全部がそうではありませんね。刀での切りあいは結局至近距離にならざるを得ず、初めの高さの優位は

関係なくなるからでしょうか。

ココまで上がってくると、そろそろアゴが出てきます。でも登りきらないとバルもキオスコ **quiosco**=売店もありません。この丘に歩いて登るとヒッタクリがでるからよせ、と書いてある本もありますが、それはこの遊歩道ではないのでしょうか。



九合目付近にある展望台まで来ると真下に闘牛場が見えます。これは最初の写真のすぐ左手になります。この辺の町には闘牛場とサッカー場は欠かせません。マラガにはリーガ Liga（一部リーグ）のチーム用の立派なエスタディオ estadio（競技場）もありますし、其の他の中小サッカー場は一体幾つあるのでしょうか。

闘牛場の右手奥の方がマラゲータです。このようにビルが建て込んでいるので、いくら海に近いからといって、全ての建物、全ての部屋から海や港が見えるというものではありません。当然眺望の開けた部屋は高く、私達でも手が出る部屋は障子の隙間から覗くような海か、隣のビルしか見えないかでしょう。それでも何かの間違い、ということもあるかも知れない、それを期待しているのです。

このビル街のすぐ向こうが、先週の「Bar」の項の初めの写真の砂浜です。左上隅に写っている船は、どうやら椰子の木オジサン・ペペの写真に写っていた沖待ちの船のようです。もしそうだとしたら、随分長い沖待ちでどうやらマラガへの入港待機ではなく、船乗りの言葉で言うオーダー待ち、次の積荷も仕向け地も決まらず、又はオーナーが売りに出したか、とにかくロクなことにはなっていないような様子です。



ヒブラルファロに登って行く遊歩道の入り口。赤い花が咲いている花壇の脇を通過して

右手前の方に上がって行きます。正面に見えるのがアルカサーバ。

工事費も工事期間も随分掛かったのですが、まだシーズン入りには早い所為もあってこの通り人っ子一人居らず、チョットヤバイなと思ったくらいでした。それでも

登って行くうちに三々五々下りてくる人にも出会うようになりヤレヤレ。

マラガの街は私達が来た一年半前に較べると随分アチコチが綺麗に整備されつつある

ようです。ピカソ美術館の開館もそうですし、この遊歩道の完成も然りです。

これからの課題は、旧市街の廃屋同然になっている建物の修復保全をどうするかということでしょう。歴史的価値のある旧市街の景観を保存しながら、中身を近代化するという難しい問題を解決しなければなりません。これはマラガに限らずスペインの各都市全てに言えることです。カディスも全く同じ問題を抱えています。私達が上っ面だけを見た限りではマラガの方が一歩前を行っているように思えます。それはそのまま周辺の観光収益の差ではないかとも考えられるのです。なんといってもマラガは

外国人観光客の群がるコスタ・デル・ソルの中心都市ですからね。



最後はマラゲータの西から見た、港とアルカサーバとヒブラルファロ。丘の頂上のすぐ右下に見える建物は人気の国営ホテル・パラドール。私達が丘の頂上、ヒブラルファロのバス停前のキオスコでセルベサを買っていると、自分もセルベサの紙コップを持ったオジジが寄って来て、「エーット、あんた達は多分英語を話すと思うんだけど・・・」と話し掛けてきました。ええ、少しなら。(どうやらアメリカ人らしいなと思いました)「イヤー、実はさっきから奥さんを見て驚いていたんだよ、私の住んでいる町に奥さんと双子じゃないかと思うような女性がいるんだ」もう70格好のオジジで特に他意はなさそうです。へえー、どういう人ですか?「Cレストランの経営者で・・・」アハハ、Nは大ショック。オジジは城の入場待ちで退屈だったんですね。暫くベンチでセルベサを付き合いました。9.11で有名になったNYFDの退職者でメイン州でB&Bを経営しているとか。お一人ですか?「ウン、バーサンは病気の犬がワシより心配で動こうとせんのだよ」「ところで」と急に真顔になって、「あんた、ブッシュをどう思うかね?」ウン、このテの話は難しいんだけど、率直に言ってイカンですね。「ソーダ、イカン、イカン、ウン、イカーン」アメリカの良心。***
